

会 議 録	
会 議 名	令和3年度 第1回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和3年8月3日(火) 14:00~16:00
開催場所	丸亀市生涯学習センター4階講座室1
出席者	(出席委員) 原真志(会長)、高濱和則(副会長)、村井花子、草薙めぐみ、高木和代、大井一栄、 嶋田悟、佐野尚文、三谷洋勝、増田美樹、保科太志 (欠席委員) 佐藤友光子、角野幸治、高島弘武、高田学、元木ひより (敬称略)
議 題	・令和2年度事業実施状況及び令和3年度事業実施予定について ・第3次瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン策定方針、施策体系(案)について
傍聴者	0人
事務局	(中心市) 丸亀市市長公室長 山地幸夫 丸亀市秘書政策課 課長 窪田徹也、副課長 谷本智子、担当長 宇野大志郎、 主任 大川智 (関係市町) 善通寺市政策課 課長 佐藤幸治、課長補佐 小河啓二、主事 山崎嵩雄 琴平町企画防災課 課長補佐 並木幸司、主任 西岡和子、主事 大喜多直子 多度津町政策観光課 課長補佐 土井真誠、副主幹 柏木章敬 まんのう町企画政策課 課長補佐 溝淵浩一
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	ただ今より、令和3年度第1回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。議事に入ります前に、本日の資料を確認させていただきます。以後の議事につきましては、会長に議長をお願いします。
原会長	それでは、議事に入ります前に、本日、委員総数16名中、11名の出席をいただいておりますので、定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告させていただきます。本日の議事につきまして、まず1点目の「令和2年度事業実施状況及び令和3年度事業実施予定」について事務局より説明をお願いします。
宇野	(資料に基づき説明)
原会長	ただ今の説明に関しまして、ご意見等ございましたらお願いします。
三谷委員	公共交通の市町間連携について、私は76歳で、趣味を4つほど持っていますが、現実には運転免許証を返納すると、いろんな場面でネックになることが生じ、出かけられなくなります。公共交通を利用するといっても、コミュニティバスは1日に6、7便と不便ですし、自転車などでの移動はなおさら危険です。やはり公共交通の充実を求めるのですが、利用者の現状は、朝の通学や高齢者の通院に限られます。私の住んでいる地域でも、90歳近くで運転している人も多いです。デマンドタクシーなど様々な方法があると思いますが、公共交通の充実に力を入

	<p>れてほしいと思います。</p> <p>また、善通寺市のコミュニティバスは琴平駅までは伸びておらず、高松へ出向きにくいと聞いたことがあります。琴電は、丸亀市、まんのう町、琴平町に通っています。高松市では、70歳以上の利用者が半額となる「ゴールドIruca」を導入しています。丸亀市だけでもこの初期投資には1億円ほどかかると思いますが、香川県に負担していただく方法や、ランニングコストは地元市町が負担するなど、圏域の南部地域では、こうした取組もメリットがあると思います。家にこもって、認知症になったり、体が弱くなる高齢者が増えないよう、定住自立圏構想の中でも十分に検討していただきたいと思います。</p>
宇野	<p>コミュニティバスの充実に関しましては、やはり費用の関係から、十分にカバーしきれていないという側面はあります。そうした状況を変える他の手段として、例えばデマンドタクシーのような取組があり、まんのう町では既に実施していますし、丸亀市でも昨年度策定した地域公共交通計画において、向こう数年間で検討していくこととしております。</p> <p>それから、公共交通の市町間連携のお話がありました。先ほどの地域公共交通計画は、国において市町での策定が努力義務化され、圏域の各市町においても今後検討されていくと思いますが、国ではその策定に合わせて、市町間の計画のすり合わせも求めていますので、引き続き次期ビジョンでも、高齢者の方が積極的に外出できるように、移動手段の確保の検討を継続してまいります。</p>
原会長	<p>公共交通については、利用者目線で何が不便なのかを把握したうえで、この圏域でできることと、それが無理で、県など他の枠組みで考える必要があることを整理して、きめ細かな対応をしていく必要があると思います。</p>
高木委員	<p>情報発信の取組に関して、定住自立圏の取組や、昨年度の取組にあるYoutubeの動画を探したのですが、ホームページでは見当たりませんでした。</p>
窪田課長	<p>丸亀市ホームページのトップ画面では、定住自立圏の専用バナーを設けており、Youtubeについても、市の公式Youtubeチャンネルとして同様の対応をとっています。</p>
原会長	<p>私が学生に接していて感じておりますのは、若い世代が情報収集する際には、我々の年代のようにグーグルではなく、YoutubeあるいはインスタグラムなどSNSで検索するということがあります。定住自立圏の様々な取組が、こうした新しい流れの中でうまく情報発信できるように、次期ビジョンでも考えていってほしいと思います。</p>
保科委員	<p>私も定住自立圏の取組を検索しましたが、なかなかヒットしないので、観光の取組にあったインフルエンサーについて、情報発信全般での活用も検討してはどうかと思います。</p>
宇野	<p>人に着目した情報発信ということで、参考にさせていただきたいと思います。</p>
窪田課長	<p>今は、各年代で情報の取得方法が違いますので、できるだけ的手法を駆使して、より多くの人に情報が届くようにしなければならぬと考えています。特にSNS</p>

	<p>Sの取組に関しては十分でないため、ご提案いただいた方法も含めて、情報発信の充実に向けて1つ1つ課題をクリアしていけるよう努めてまいります。</p>
三谷委員	<p>病院群輪番制の取組では、圏域を越えた枠組みで、坂出市や綾川町の病院も入っています。また、香川県では水道、国民健康保険が県で一本化されました。高松市へ出かける場合も、車で1時間かからず、生活圏は広がっている状況です。人口減少、少子高齢化が進む中で、この2市3町の圏域で協力して取り組めることはできるだけ実施することが必要です。また、狭い香川県のことを思いますと、圏域の枠組みも越えて、スケールメリットを拡大する考え方も大切だと思います。</p>
原会長	<p>確かに愛媛県や高知県と比べても、香川県の面積は狭いので、逆に言うと、この圏域で取り組むことの意義をしっかりと考える必要があると思います。</p>
草薙委員	<p>先ほどの情報発信についての続きになりますが、各市町のホームページで定住自立圏のことを検索しても、結果が出てこないという現状がありますが、いかがですか。</p>
宇野	<p>丸亀市の場合で申しますと、定住自立圏の専用バナーを設けています。</p>
草薙委員	<p>第3次ビジョンの策定方針を協議していくと思いますが、その前提として、定住自立圏の取組に対する2市3町の意識の調整をしておく必要があります。</p>
三谷委員	<p>文化芸術・スポーツに関する取組の中で、ラグビー教室を実施したとのことですが、できるだけ幅広く多くの方が参加できるようなスポーツの方が良いと思います。</p>
増田委員	<p>子育てサービスの取組に関連して、三豊市や観音寺市では、退職した教職員が夏休み中の子どもたちの面倒を見てくれる新たな取組を始めたと聞いたのですが、2市3町では、そのような取組を行っていますか。</p>
宇野	<p>丸亀市では、夏休みだけでなく、放課後も含めてですが、コミュニティの方に協力をいただきながら放課後子供教室という取組を行っています。また、いわゆる学童保育を各校で実施しており、他の市町も同様の取組を行っています。</p>
原会長	<p>他にないようでしたら、次に移ります。議事の2点目「第3次瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン策定方針、施策体系（案）」について事務局より説明をお願いします。</p>
宇野	<p>(資料に基づき説明)</p>
原会長	<p>取組のボリュームが大きいので、まず、「生活機能の強化」にかかる分野についてご意見等があればお願いします。</p>
草薙委員	<p>病児・病後児保育の取組については継続するとのことですが、社会の課題が変わっている状況でもこの分野の取組は変えないのですか。</p>

窪田課長	<p>社会の課題として、病児・病後児保育は、女性活躍推進の観点からも必要な取組という認識のもとに次期ビジョンでも継続していきたいと考えています。</p>
草薙委員	<p>圏域内であれば、病児・病後児保育を同一料金で利用できることは、ある程度利用者の方にも周知されてきているように思います。</p> <p>それから、女性活躍の推進があげられていますが、共生ビジョンという表現からすると、例えば、外国人や障がい者の方も活躍できるような社会を目指すことも必要ですし、ジェンダーの視点に限定するのはどうかと感じます。</p>
窪田課長	<p>多文化共生の観点も含めて、誰もが活躍できる社会というのは、基本的な考えとしてあります。女性活躍の推進としてできることは、社会的な課題の一つとして次期ビジョンでも継続していきたいと考えています。</p>
草薙委員	<p>女性活躍よりも、子どもを持つことでパートナー同士が互いを理解し、家族として支え合っていく社会システムが大事で、女性だけの問題ではないことも考えていただきたいと思います。</p>
原会長	<p>「圏域マネジメント能力の強化」にかかる分野の取組になりますので、後ほどあらためてご意見をいただければと思います。</p>
高木委員	<p>少子化対策の取組も良いのですが、児童虐待の問題もありますし、生まれてきた子どもの命を守ることや、保護者を支援する取組も必要だと思います。また、コロナ禍において、特に30代の女性の自殺者が増えていると聞いています。声をあげられない人を孤独にさせない取組が大事だと思います。</p>
宇野	<p>コロナ禍で児童虐待の増加も心配されています。児童虐待に関しては、香川県の児童相談所と各市町が連携を強化し、既に一つの枠組みとして対応しているところですが、自殺者の増加も懸念されていますが、丸亀市の場合で申しますと、そうした支援を必要としている方を見逃さないように、ゲートキーパーという、身近に相談できる人を増やす取組をすすめています。</p>
原会長	<p>児童虐待に関しては、県との専門的な連携があるとのことですが、この圏域としてという観点ではどうですか。</p>
窪田課長	<p>圏域として共同で実施できることは一緒に取り組んでまいりますが、児童虐待の相談機能などの部分で言いますと、それぞれの市町で独自の窓口機能を持っており、状況に応じて、さらにその上の機関である県の児童相談所との連携の中で対応しています。</p>
草薙委員	<p>第3次ビジョンの新規の取組は、各市町で取り組んでくださいというスタンスですか。</p>
窪田課長	<p>それぞれの市町で取り組むものと、共生ビジョンの中で位置付けて2市3町が共同で取り組むものがあります。今回提案している少子化対策の取組については、国の少子化対策重点推進交付金の活用を検討するもので、既に圏域内の市町</p>

	でも結婚新生活支援事業というものに取り組んでいます。結婚して新たな生活をスタートする時に、家賃等の一部を補助するといったものですが、これも含めまして、国の交付金に様々なメニューがありますので、圏域として共同で取り組めることを考えていくという意味合いの項目だと理解していただければと思います。
草薙委員	その具体的な内容は、どこの場で決めていくのですか。
窪田課長	まずは、事務調整会議という2市3町の政策部門の担当者の協議により案を作成し、形成推進委員会という2市3町の首長で構成する会議へあげていくという手順を踏みますが、合わせてこちらのビジョン懇談会という審議会の場でもご意見をいただきながら、ビジョンの策定や進行管理の中で定めてまいります。
原会長	定住自立圏は複数の自治体で構成されていますので、合意がなければその取組は実行できないという点で、単独市町で取り組むよりもハードルが高い状況があります。その上でご意見をいただいたものについては、各市町で持ち帰って検討をすすめて合意形成を図っていくという仕組みになっています。
高濱副会長	様々な意見が出ていますが、市町単独でもなく、県単位でもなく、この圏域として一番フィットする取組を協議することが大切で、その内容が何であるかを、事務局が施策体系（案）としてまとめて示してくれていますので、その点を理解して議論する必要があります。この圏域という枠組みで地道に取り組めることを、様々な立場にあるみなさんから問題点などをあげていただければ、この会議を有意義に活用できると思います。
原会長	例えば先ほどの多文化共生については、県のレベル、各市町のレベルでも議論できるテーマですが、この会議では2市3町として取り組むべきことをピックアップして知恵を出し合っていくことが大切です。
草薙委員	少子化対策に関してですが、私が善通寺市で運営している地域子育て支援拠点事業では、善通寺市民に限らず、この圏域の住民の方が利用しています。子育て施策に関しては孤立化させてはいけないという視点が共通してあります。私たちが行っている取組は、児童虐待が起きてからの事後対応ではなく、予防的支援です。少子化対策をすすめるうえで、こうした視点も含めて取り組んでいただきたいです。
原会長	少子化対策の項目の中で児童虐待に関する内容を明文化するのか、それとも別の項目として取り上げるのか、どちらですか。
草薙委員	少子化対策に含めていただければと思います。
窪田課長	今回の施策体系（案）をもとに、次回の会議では共生ビジョンの素案をお示ししていく予定としています。その中の記載で工夫できる場合もありますし、やはり難しいということも考えられますが、そのあたりも確認していただければと思います。

原会長	草薙委員が取り組んでいる事業については、広域的に利用されている実態があるので、ビジョンへの記載を検討してみたいかがでしょうか。
窪田課長	2市3町の事務調整会議の中で検討させていただきます。
三谷委員	中小企業の活性化のうち、地元企業のPRを中学2年生に対して行う取組は非常に大事なことだと思います。圏域内には、世界的にシェアが高い事業者もあります。大企業に入ることだけが幸せということを考え直す時期に来ており、そうした知識を中学生の時代から教えておくことは大切です。
原会長	私どもの大学で実施したビジネスコンペでは、丸亀高校の生徒による香川漆器を活用した取組がグランプリを取りました。地元の学生が自分たちの目で見えて理解したことを、課題解決に向けて主体的に考える非常に良い取組だったと思います。
高濱副会長	企業においても、職場見学のように、子どもたちから意識してもらい、いずれは地元に残ってもらえる、帰ってきてもらえるような取組に力を入れています。
原会長	それでは、続きまして、「結びつきやネットワークの強化」、「圏域マネジメント能力の強化」の分野について、ご意見等をお願いします。先ほどの草薙委員の女性活躍に関する内容はいかがでしょうか。
草薙委員	事務局の方で協議していただければと思います。
村井委員	私は学校の方で建築を専門としていますが、昨年、学生と宇多津町の古いまちなみを調査し、リノベーションの設計をしました。その際に、子ども食堂にすることが提案され、まずは他の現場を見てみようということになりましたが、コロナ禍でどこも閉まっていました。コロナ禍であるからこそ、逆に公共的な施設は開けておいて欲しいと感じました。 また、丸亀市には城下町があり、圏域内には古いまちなみや歴史が多く残っています。各個人の所有である場合が多く、古い建物はどんどん減っている状況ですが、圏域全体の歴史を保存する取組があれば良いと思いました。歴史まちづくり法というものがありますが、2市3町にぴったりのものだと思います。
窪田課長	ご提案の圏域の特徴も分かりますし、行政が取り組んでいることにも合致する部分はありますので、参考にさせていただきます。
原会長	他にないようでしたら、最後に「その他」で事務局より何かございますか。
宇野	(今後のスケジュール等について説明)
原会長	以上を持ちまして、本日の懇談会を終了します。 (会議終了)